



当事者が取り組む それぞれの多文化共生の活動について



▲インタビューをしたディヌーシャさん（上2枚）・サンゴさん（下2枚）の活動の様子

▼ 目次【VOL.152】

- 2-4 【世界の今を知る】
当事者が取り組むそれぞれの多文化共生の活動について
- 5 FUNN加盟団体活動レポート
- 6 FUNN活動レポート
- 7 NGO相談員報告・イベント情報

皆さまは、在留外国人の方が取り組む多文化共生の活動についてご存知ですか？今月号では福岡に暮らすスリランカ出身のディヌーシャさん・ベトナム出身のサンゴさんにインタビューを行い、それぞれの多文化共生の活動から、在留外国人の当事者として考える「必要な支援とは」等についてのお話を聞きました。

インタビュー記事は次のページから **▶▶▶**



ランブクピティヤ
ディヌーシャさん

(久留米大学外国語
教育研究所准教授)

一番最初はいつ日本に来られましたか？

最初来たのは1995年です。私は日本の里親の団体から支援を受けた里子さんです。スリランカの中学校から大学卒業するまで支援を受けていました。その支援活動をしていたスリランカ日本教育文化センターで開催された、日本語のスピーチコンテストで一位になって、二週間の日本旅行に行く機会を与えてくれて、それが最初です。その後2回ほど国際交流基金のプログラムで来日し、2008年に国費留学生として来日して以来ずっと日本にいます。

経歴について教えてください

信州大学と九州大学に在籍していたんですけど、九州大学を卒業してから半年ほど九州大学で働いていました。そのあと熊本県の崇城大学に移ってそこで1年間働いて、2017年から久留米大学で働いています。この大学に移った時は、大学の留学生の日本語を担当していたんですが、今現在では文学部にも属していて、そちらの授業も担当しています。

ディヌーシャさんがご自身で行っている多文化共生の活動について教えてください

第一に、行っている活動としては大学の教員でもありますので研究をしています。私は研究をすることは社会貢献でもあり社会に役立つ活動だと思っています。最も力を入れてこの頃やっているのは、外国人保護者が学校現場のことが分からないという声があるので、外国人保護者の目線からの日本の学校に関する研究をやっています。

もう一つはやっぱり私も元留学生なので日本社会に適応していくのは課題なので、留学生の日本社会への適応に関して、特に感謝を表す場面に特化した形の留学生の日本社会への適応法も研究しています。もう一つ今行っている活動としては、外国にルーツを持つ児童生徒は日本語の問題もありますが、その子たちの継承語というものもあって、それが大事だと思い、2019年からスリランカにルーツを持つ児童生徒の継承語であるシンハラ語の教室を数人で集まってやっています。

外国にルーツを持つ子たち、例えばスリランカの子たちが日本にいたらシンハラ語だけが彼らの継承語ではないんですね。彼らが社会に出ていくために必要な言語は親から受け継がれた継承語だけではなくて、社会につなげるという意味での繋生語もあります。私がやっている教室はどちらにもあたるのかなと思っています。彼らが社会に繋がっていくための言語でもあり、もちろん親から受け継がれた言語でもある。また、継承語だけではなく道徳教育もその教室で行っています。仏教をベースとしたものではあるんですが、日本のような競争が激しい社会の中で生きていくにはどのような力が必要なのか、そういう社会の中で生きていく中、何かの問題に直面した時にどうやって自分の力で解決して自分を失わずに、自殺せずに上手くやっていくのかということを考えさせる場を提供しているつもりです。目的はその二つ。継承語としてのシンハラ語と子どもたちの心のケアを大事に考えた道徳的な教育を提供するための教室を今やっています。実施は基本一か月に一度、第一週目の日曜日に行っていて、太宰府市のスリランカのお寺で主に活動しています。生徒は基本スリランカにルーツを持つ児童生徒としていますが、年齢制限は設けてなくて、今2~3歳から高校3年生までいます。

外国の方と共生する上で日本人が改善すべきことは何だと思いますか？

外国人の立場によっても、年代によっても、日本の在住期間によっても、それぞれニーズや困ることも変わってくるのかなと思います。例えば、私が留学生の時に感じていた悩みや困ったことは外国人の母親として困っていることとは違いますし、外国人として職場で働くことともまた違います。すべての方々に対して共通することをあえて申し上げるのであれば、日本人にとっても外国人にとっても大事なことは理解することかなと私は思っています。理解するというのは簡単ですが、すごく難しいことですね。理解する前の段階で理解しようと努力することが大事だと思います。どの立場の人でも理解しようと努力してさえいけば、何か相手に伝わることがありますし、相手も理解できる部分が見えてくるし、そこから問題が起きても解決に向かって対策を取っていけるのかなとも思います。けれども我々は理解しようともせず、先入観を持って思い込みでやろうとすると摩擦も失敗も大きくなって、多文化共生もうまくいかなくなると思います。だから理解しようとする努力がどちら側にも必要かなって思います。それさえあれば言語とか文化の違いとかいうものは一切問題じゃないかなと思います。

在留外国人に対する支援はどのようなものが必要だと考えますか？

時期や立場によって変わってきますが、例えば、私自身も妊娠した時はすごく不安だったんですね。保障はされているんですけど自分の国ではないところでお医者さんに診てもらって、出産するまでの10か月間無事に終わられるかすごく不安でした。一方で、学校に子どもを通わせるようになってからは、例えば、学校の先生に上靴を持ってきてくださいと言われた時に、私が想像していたのは道路を歩くときに履く靴のことで、でも幸いその先生は実物を見せたので、こういうものだって初めて分かりました。少しでも不安をお話しできて、知恵を貸してくれる日本人の友達がいればいいなとは思っていますね。

日本の方に意識してほしい一番のことは？

正しいかどうかはわかりませんがご質問を受けて思ったのは、私が日本に来たばかりの頃、日本人は世界中どこも日本だと思っているんだなということでした（笑）色んな文化や考え方、言語や宗教を持つ人たちがこの世の中にいるということをまず理解してほしい、分かってほしいというのはありましたね。そうすることで外国人と一緒に活動するときの日本人の行動も言葉も変わってくると思います。日本人の文化は素敵だと思いますが、その文化の中にいない人たちもこの世の中に居るということを知って頂けたら良いのかなと思いました。

ディヌーシャさんは、どのような思いで多文化共生のための活動を続けていますか？

あまり深く考えていないかもしれないですね。深く考えたら多分やっていけないと思うんです。できる時にできることをするというのが私の考え方で今は活動を続けています。日本に来たばかりの頃は、自分の支えだと思っていた里親さんの近くに住んでいたのですが、日々の生活の中で摩擦や問題ばかりで、母国に帰ろうとしたこともあって、最初の頃はとてもつらかったです。自分の唯一の支えだと思っていた人に色々と言われるとすごく悲しくて、それがわたしの留学生の感謝表現についての研究を始めきっかけにもなりました。里親に何かしてもらった時に私、言葉でありがとうと言ってなかったみたいなんです。それに対して里親がなんでありがとうと言わないの？おまえは感謝を家族に教えられなかったのかって言われたんですね。私は私の文化で、日本で生きていたんだなと思いました。スリランカは親しい人に言葉で頻りに感謝を伝えると距離感を感じるんですよ。私はあなたにとってそんなに遠い存在なのかという風に思うので。私の考えでは、いつか里親さんが高齢になった時に面倒をみるのが感謝だと思っていて、当時の私の感謝は勉強に集中することでした。相手を理解するというのは簡単ではないので私はあまり深く考えずにやっ払いこう、そしてできるだけ会話対話を重ねていこうという風に今は考えています。なるべく一緒に活動する方にも負担を感じさせないように努力をしていて、何でも受け入れられる心を持ちたいと思って行動しています。決まりや常識に縛られない、捕らわれないような自分を持ちたいというのも心掛けたいとは思っていますね。

日本に来た経緯と、選んだ理由を教えてください

2007年に留学生として立命館アジア太平洋大学(APU)の留学生として来日しました。卒業後、福岡に来て二年修士課程で九大の方で勉強した後、今年の3月まで西日本短期大学で教員として働いてきました。4月から法人の仕事の量が増えたので教員を退職し、今は一般社団法人福岡国際市民協会の代表理事をさせていただいております。日本を選んだのは、ベトナム出身なので距離的にそんなに遠くないところですね。文化が似ているところもあって、いろんな世界の人と交流できて、多様な学びができ、自分が進みたい分野・学問もあったのと、大学では今まで学んできた英語とは違う言語が勉強したくて、APUの環境を選びました。



ブイ・テイ・トウ・サンゴさん
(福岡国際市民協会 代表理事)

サンゴさんがご自身で行っている多文化共生の活動について教えてください

大学時代に国際交流の企画サークルに参加していました。主に、日本人と留学生が仲良くするような企画をする活動を三年間ほどしていました。大学院では在福岡ベトナム留学生青年協会の副会長として、コミュニティ交流や助け合いの活動をしていました。そこから色んな交流機会を設けるためのベトナムフェスティバル福岡実行委員会も2018年に設立しました。フェスティバル開催だけが目的ではなく、日本語学校生、実習生もみんなが日本で活躍するためのコミュニケーション能力を高めたり、日本人と接する機会を提供したりしています。その中でもベトナムコミュニティの若者向けに進学・就職フェアを実施したり、直接大学や企業と出会える機会を提供したり、ベトナムにルーツを持つ子どもたちのための母国語教室もしました。2022年まではコロナの問題もあって、色々なイベントはできなかつたけれど、コミュニティの発展により新たな課題が出てきました。

日本で生まれた外国ルーツの子どもたちが家族とのコミュニケーションが難しい、またその子どもの居場所の確保という問題が出てきたため、去年からは学習支援、母国語、また居場所を提供する福岡国際子ども食堂&居場所という事業をスタートしました。多言語の発信、文化的配慮をする食事提供があることで、外国ルーツの子どもも来やすくなっていますね。5月からは学習支援のため福岡多文化共育スペースという事業をスタートしました。そこでは子どもだけでなく保護者にも支援できるようになって、学習支援だけでなく相談に乗ったり、通訳のようなサポートもやったりしています。最近だと、夜居場所のない子どもや食事に困っている親子が無料で支援を受けられ、送迎もできるようになっていたりします。それでも来られない子どもたちのためにはオンラインでも行っています。人によって問題はそれぞれあるのでそのニーズに合わせるやり方をしています。しかし、この支援も二月末で一旦終わりです。ただ、継続するためにまた来年の資金を確保するよう努力していきます。あともう一つ大事なのが国際交流・相互理解だと思っていて、年2~3回大きなイベントは必ず実施しています。行事を一緒に体験することで継承文化を大事にできる場を提供して、そこから相互理解や交流が生まれるようなイベントです。他には、社会制度のセミナーも保護者向けに実施予定です。

子ども食堂&居場所を通してどのような人材を育てたいですか？

最終的にはグローバルな人材になってほしいです。みんなが楽しく日本の学校の授業についてこれるようになって、外国ルーツの子は自分のルーツも確立できて、日本の子どもたちには多様な国際観点を持つような人になってほしいです。多様性、融通がきくようになるのは、日本の文化の中でちょっと難しいところがあるから、子どもから大人を変えていきたいと思っています。大人は考えが定まってしまうけれど、もしかしたら子どもから言われたら変わっていくのではないかなと思うので。

子どもたちに接するとき気をつけていることは？

ここでは自分のままで安心していただけることを大事にしていて、接するときにはまず多様なことを必ず理解する、違いを尊重するという所を第一に考えています。あとは子どもなので安全も大事にしています。学習の場ですが子どもの意思を最初に尊重して、自分の課題を自覚してから一緒にやっていくようにしています。外国ルーツの子たちはやらないといけないことが多くて大変だと思うので、出来るペースで少しずつやっていくようにしています。

日本で生まれた外国ルーツを持つ子どもに対して、どんなサポートが必要だと思いますか？

外国ルーツを持つ子どもなので、ずっと日本にいるかもしれないけれど、もしかしたらいつか母国に帰らないといけないかもしれない。だからどうなっても生活の不利にならないために教育は大事だと思います。言語と、自立できるようなスキルのサポートが必要なのと、就職につながるようなスキル訓練のサポートも大事だと思います。また、外国ルーツに対応する制度も作らないといけないと思います。教育の制度もまだ国民向けの教育だし、特に高校の進学は受け入れるところが少なく。実際、高校・大学進学率は日本人と比べるとすごく低い。別の枠が必要ですし、例えば日本語ではなく母国語を使えるような言語に関する見直しをする必要もあると思います

サンゴさんにとっての多文化共生とは？

まず文化の違いを尊重して、みんなが同じところで安心して生活できる社会ですね。そのためにお互いから学び合う社会ということも大事です。

(インタビュー：FUNNインターン有田・青木/事務局 多原)



ISAPH 20周年を迎え これからの私たちについて



特定非営利活動法人ISAPH
事務局 佐藤 優（写真右）

おかげさまをもちまして、ISAPHは、今年で20周年を迎えることができました。
この歳月を振り返ると、NGOとして精一杯取り組んだ！という気持ちと、組織の限界を感じた記憶が蘇ってきます。本寄稿では、私たちの学びと展望を少しだけ共有させていただければと思います。

ISAPHが感じた限界、それは「一つの団体が持つ力の小ささ」です。どのようなNGOでも、何かの社会課題を解決するために立ち向かっていて、それは尊いことです。私たちも、マラウイやラオスの母と子の命を守るために、保健医療の草の根活動に取り組んでいます。しかし、当然ですが、全ての命を救えるわけではありません。住民が質の高い医療を受けるためには、インフラであったり、医療費を捻出するための仕事であったり、国が平和であることも重要です。保健医療の向上は、大切な要素の一つですが、それだけでは命を救うために必要十分とは言えません。

SDGsも同じ点を指摘していることをご存じでしょうか。17の持続可能な開発目標は「統合され不可分であり…」と説明されていて、どれか一つに取り組めばよいわけではありません。まして、一つの課題解決のために別の課題が後退するのでは意味がありません。ラオスの活動地域では、住民にキャッサバの生産委託が始まり、働き口のなかった人々はこぞってキャッサバを植えるようになりました。しかし、そのために森林を伐採し、乳飲み子は祖父母に預けられ栄養状態が悪化し、現金は駄菓子やビールに変わっています。ともすると、私たちは関心のある事象しか目に映らないかもしれません。ただ、現地の方に寄り添うと、一つの課題が生活のあらゆる側面に繋がっていることを実感します。

このような経験と考察から、これまで「自分たちの関心」ばかりに目を向けていた実情に気づかされました。自団体の限界も、他団体の力も十分に知らず、むしろ「同業他社」は、資金獲得に関する競争相手とすら思っていました。もちろん、私たちの社会は自由競争から成り立っていて、競争があることで、さらに良いサービスや取り組みに繋がることは歴史が証明しています。しかし、もしISAPHが勝ち続けたとしても、そのために他のNGOが減ってしまえば、本当に社会課題の「解決」に近づいたと言えるのでしょうか？次の10年、50年も同じように競争していけば、より良い社会になるのでしょうか？本当に大切なことは、「自分の力が小さい」ことを自覚して、他団体と協力したり、担い手が生まれやすい社会を共創することではないでしょうか。そう理解を改めれば、まさにNGO福岡ネットワークとの連携やNGO同士の学び合い、そして団体が持たない専門性や能力を他者と分かち合っ、課題解決に繋がる真のソリューションを目指すことが重要なのだと理解するに至りました。

ISAPHは、開発途上国における社会課題に立ち向かうため、これまで多くの時間を自団体の成長と発展に捧げていきました。次の20年は、「社会課題を解決できる社会づくり」をテーマに掲げ、NGO福岡ネットワークのメンバーとして、改めて皆さんと一緒に、次の未来を創ることに手を動かしていきたいと考えています。



多文化共生の
担い手がつながる
プラットフォーム福岡

たぶプラミーティングvol.2・vol2.5 開催報告

7月21日に福岡市・7月26日に久留米・7月27日に北九州にて「たぶプラミーティングvol.2」を、また8月25日にオンラインにて「たぶプラミーティングvol.2.5」を開催しました！

たぶプラミーティングvol.2では多文化共生や在留外国人支援に関わる個人／団体の他に、地域の多文化共生マネージャーもお呼びして、多文化共生マネージャーとは何か？といった説明から、グループに分かれて多文化共生の活動の中での現在の課題や、最近うれしかったことの共有などを行いました。

たぶプラミーティングvol.2.5では「意外と知らない！？出入国在留管理局の仕事～プロとつながる！連携先としての入管～」と題して、講師に水本敦史さん（福岡出入国在留管理局 統括審査官）をお呼びし、出入国在留管理局の仕事についてお話いただき、ケーススタディを元に「活動中こんな相談があったら、あなたならどうする？！」を入管行政の視点から水本さんと一緒に考える時間を設けました。

vol.1に引き続き本当に様々な活動をされている方が集まってくださり、自己紹介だけで会話に花が咲くような場面も多く見られました。感想の中では、ゆるく繋がることの大切さを感じたという声や、他の方の活動に関するお話を聞き良い刺激をもらったという声をいただくことができました！



▲たぶプラミーティングの様子



FUNN活動レポート

『組織づくり勉強会』を開催中です！

NGO相談や助成金事業でつながりのできた新しい団体の方々を中心にお声掛けをし、6団体で、組織に関する勉強会を6月から始めています。

内容としては、組織としてめざすものをことばにすること、どんな組織形態があるか、それぞれの特徴は、自団体にはどういった形が向いているかなど、話し合いました。続いて、NPO法人については相談窓口があるので今回は一般社団法人の立ち上げ方を中心に定款作成や法人化手続きを具体的に見てきました。月1, 2回のペースで一区切りまできたので、今後助成金申請や財務、ボランティアの関わり、リスクマネジメントなど、参加される皆さんの関心をテーマに、進めていきたいと思っています。セミナーではなく勉強会ですので、きっちりした解答がここで出るわけではないですが、いろいろな方の見方や意見をもらって課題の整理が少しずつできる気がしています。自由参加ですので、興味のある方はFUNNまでご連絡ください。次回10月初旬を予定しています。



組織づくり勉強会
～とくに一社について

FUNNや関わりのある皆さんで、おからまないこと、知りたくないこと、整理したいことを一緒に学びましょう。



NGO相談員活動レポート

海外ボランティア・国際協力に関する相談はコチラから→



FUKU-NETパネル展にNGO相談員として出張しました！

7/30～8/5の期間、福岡市役所ロビーにおいて実施されました福岡国際関係団体連絡会（FUKU-NET）が実施する加入団体活動紹介パネル展にて、NGO・国際協力についてのパネルを設置し、相談対応を実施いたしました。福岡市役所にての開催のため、福岡市民の方が多く来場いただき、国際協力やNGOについて知っていただくことができました。



▲パネル展の様子

【NGO相談員 次回出張予定】お近くの方はぜひ遊びにきてください☆

☆11月2日（土）10:30～15:30 おおいたワールドフェスタ2024@祝祭の広場

☆11月24日（日）11:00～16:00 さが国際フェスタ@どんどんの森 & アバンセ



出張サービス申し込み受付中です！

NGO相談員としてNGO福岡ネットワークの職員が九州地域全般に出張サービスに伺います！職場、学校でのイベント（国際協力関係に限らず）や研修会、学習会に出向きます。講義、セミナー、ワークショップも可能です。出張料金は無料！

「プログラムから一緒に作れないだろうか？」「この企画には来てくれるだろうか？」などなど、まずはお気軽にご相談ください！



FUNN周辺“おすすめイベント”情報

【トウマンハティふくおか】

Pesta Indonesia Fukuoka 2024

歌って！踊って！遊んで！食べて！天神中央公園で開催するインドネシアの祭典！

- ◆日時：10月12日（土）11:00～20:00
13日（日）11:00～17:00

◆場所：天神中央公園

◆主催：Pesta Indonesia Fukuoka実行委員会

※インドネシアの飲食ブース出展も予定

※10月11日はハラルシンポジウム、12、13日はインドネシア人向けの大使館サービスもアクロス福岡で開催を予定しております。

【PP21ふくおか自由学校】

北九州平和資料室から反戦と平和を発信する

- ◆問題提起：小松芳子（こまつ・よしこ）さん
- ◆日時：10月19日（土） [開場13:30] 14:00～16:30
- ◆会場：なみきスクエア視聴覚室
- ◆参加費：一般 1000円／学生 500円

ワタシのミライを守るのは今！～地球沸騰化への警鐘～

- ◆問題提起：高田陽平（たかた・ようへい）さん
- ◆日時：11月9日（土） [開場13:30] 14:00～16:30
- ◆会場：あいれふ8F視聴覚室
- ◆参加費：一般 1000円／学生 500円

※どちらもお申し込みはふくおか自由学校HPから！

たぶプラ・福岡の活動に参加してみませんか？



FUNN・ISAPH・JustLinkの三団体が主体となり、福岡県内の在留外国人支援に携わる人たちがつながり合い、お互いの得意分野で助け合うことで、地域の多文化共生が发展できる環境をつくることを目的に始まった『多文化共生の担い手がつながるプラットフォーム福岡（たぶプラ・福岡）』

たぶプラ・福岡では一緒に活動に取り組んでくれる仲間を募集しています。多文化共生の活動に取り組んでいる方はもちろん、地域の外国人の方との関わりのある方や日本語学校のボランティアさんなども大歓迎です！私達の活動としては、地域で在留外国人の支援に取り組む方々がまずは知り合うための場作り事業を今年度実施しています。ご関心のある方はNGO福岡ネットワークまでお気軽にご連絡下さい！！

NGOの活動を
を知りたい！

参加するには？
何が出来る？

NGO相談 受付中

ご相談おまちしております
メール・電話にてお問い合わせください

FUNN会員募集中！※金額は年会費です。詳細はORコードページまで！

- ・正会員（団体） ¥10,000
- ・賛助会員（企業） ¥30,000
- ・賛助会員（個人） ¥6,000
- ・通信会員（個人） ¥3,000



寄付の振込先 ※会費振込もこちらの口座まで

【西日本シティ銀行】

加入者名/名義人：NGO福岡ネットワーク
カナ名：トクヒ エヌジーオーフクオカネットワーク
支店番号：208（赤坂門支店）
口座番号：普通 1641291

【郵便振替】

加入者名：NGO福岡ネットワーク
口座番号：01790-7-89478

※通信欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。

編集後記

今月号は巻頭にディヌーシャさん・サンゴさんのインタビューを掲載させていただきました。お二人ともたぶプラ関係で今年度知り合ったのですが、実施されている取り組みのお話を聞くと、本当にすごいなと感じます。お二人のような方々をサポートするためにも我々も頑張りたいなと思います！（編集：多原）

FUNN正会員団体リスト

- * (特活) ISAPH
- * アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- * (特活) アジア女性センター
- * (一社) NTDs Youthの会
- * (特活) 九州海外協力協会
- * 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- * 佐賀NGOネットワーク
- * JVC九州ネットワーク
- * (特活) じゃっと
- * 認定NPO法人地球市民の会
- * チベットを知る会
- * NPO法人トゥマンハティふくおか
- * 認定NPO法人難民を助ける会
- * ネパール歯科保健医療協会(ADCN)
- * (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- * PP21ふくおか自由学校
- * 福岡YMCA
- * フレンズ国際ワークキャンプ九州
- * (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- * (一社)モザンビークのいのちをつなぐ会

【編集・発行】

FUNN 特定非営利活動法人
NGO福岡ネットワーク

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-6-1
小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

FUNN公式ホームページ
最新情報はコチラから



* 受付時間：火～土 13:00～18:00

* 日・月・祝・・・休み



092-405-9870



funn@ngofukuoka.net



https://ngofukuoka.net/